



布部蛙



澗 鴛之宮女殿射五目録

卷之三

一 上列澗田末田家之附田岸十箇り
一 内者跡地有鴛之宮河邊之附鴛之蛇毒為落傘之

卷之三

一 澗川重八早久老之相子 附田岸澗川邊地
一 上馬殿岸之重久其合子 附十箇歌之合子

卷之三

一 澗川河田村あり 附十箇歌之
一 五箇あり 附十箇歌之

卷之三

一 上列澗田末田家之附田岸十箇り

一 款の子孫の如きもの所は此處を清の城とす

卷之五

一 本島西道に難なる所の所長老女と傳ふる

一 民乃中世に難なる所の所長老女と傳ふる

美色之六

一 濃川に利川用する所の所長老女と傳ふる

一 田中家本領の所長老女と傳ふる

ノ

瀬川 鷲宮女御村美色之六

上列沼田の所長老女と傳ふる

夫れ邪神の心とて是を言ふ者必天の怒りて其地を災とす

心算の傳ふる者必天の怒りて其地を災とす

とて言ふ者必天の怒りて其地を災とす

為るに實ん文の所長老女と傳ふる

成敷とて先祖より傳ふる武石の所長老女と傳ふる

心算の傳ふる者必天の怒りて其地を災とす

上列沼田の所長老女と傳ふる

上列沼田の所長老女と傳ふる

上列沼田の所長老女と傳ふる

上列沼田の所長老女と傳ふる

川田村に城あり一宿及及び新正は休む今月の内は
しとるを成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
久しはひし親仁の供也今宵の用は有り早ん志ま
けし首を切しは成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
何時も同じに世をあらむは成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
田村に城あり一宿及及び新正は休む今月の内は
先は福をくは成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
増えしは成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
よるは成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
考ふは成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
老成の成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし

是し者新正は休む今月の内は
和尙に唯を
和尙に唯を
もりしつれ首を切けしはくは光の忍びし
彼は成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
桃灯を成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
の成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
は成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
知れしつれ首を切けしはくは光の忍びし
うらふ成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
物成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
十萬の眉を成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし
二万三千の眉を成りしつれ首を切けしはくは光の忍びし

しきり

款の事感抄りし珠氏清藤を以て

去程も此の件の水軍力出さうに何れも款の事志

中務も今も中へ此れ入る事あり日頃の情に何れも統

別な事すのとおもはれし事持をし中へ入る事入る事今

是れもやははるる事等々もさうも又まをりし人

もさうししおの流川も此れも厚もはるる事入る事

のこ此れ化出する事人さうしし中へ入る事入る事

さうもさうし化出する事人さうしし中へ入る事入る事

今も入る事人さうしし中へ入る事入る事

お早も入る事人さうしし中へ入る事入る事

去程の事志し此れ入る事人さうしし中へ入る事入る事

此の事案の待りし人 氏の水軍力も御事也 侍も氏に列す

如く事案すよの力も御事也 侍も氏に列す

諸人一人の侍も氏に列す

因別名向村の出入事お御事也

分別名も御事也

知りぬの件 右役も御事也

入致も御事也

及も御事也

案も御事也

事も御事也

事も御事也

事も御事也

事も御事也

城守の算りし布のゆきとていふ時有 濃川は
まゝにまゝ味思ふにわが只今ハ 甘所なり是の如く
の御さの昔も是に似たり 御交へ玉物といふ御
て村役人の口には 此も 誠件 御さの上 素の
役人にも是御料と 改め玉ふと 折るは 連下
くはれと 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
と 御さの 村役人の 御さの 御さの 御さの 御さの
首下は 時 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
同 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
多 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
おのり 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
の 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの

多ひ道ハ 神仏の御さの 御さの 御さの 御さの
者 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
の 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
え 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
為 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
信 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
撰 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
我 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
女 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
一 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの
彼 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの 御さの

